

1. 評価結果概要表

作成日 平成 19年 8月 21日

【評価実施概要】

事業所番号	2070200924		
法人名	社会福祉法人平成会		
事業所名	グループホームなごみ		
所在地	長野県松本市寿北5-34-23 (電話) 0263-85-0775		
評価機関名	コスモプランニング株式会社		
所在地	長野市松岡1-35-5		
訪問調査日	平成19年8月10日	評価確定日	平成19年9月1日

【情報提供票より】 (平成19年 7月30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 3月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤16人, 非常勤 1人, 常勤換算16.8人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	1 階建ての ~ 1 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	54,000 円	その他の経費(月額)	12,000 円
敷 金	有 ( 円 ) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (100,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,170 円

(4) 利用者の概要(平成19年 7月30日現在)

利用者人数	18 名	男性 2 名	女性 16 名
要介護 1	2	要介護 2	4
要介護 3	9	要介護 4	3
要介護 5		要支援 2	
年齢	平均 86.1 歳	最低 78 歳	最高 93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	桔梗ヶ原病院、鴨居歯科
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームの居間の広いガラス窓越しに、居ながらにして、四季折々の北アルプスを遠望し、眼下には松本の城下町を眺めることができる。玄関は昔ながらの引き戸で趣があり、共用空間は全体が木目調で明るい雰囲気である。入居者にはある程度の日課はあるが、時間を区切った過ごし方ではなく、一緒にお茶を飲んだり、カレンダー作り、お菓子作り等、思い思いのペースで過ごせるよう支援されている。このホームならではの食器へのこだわりがあり、色とりどりの盛り付けを見ただけでも「食」の楽しみがわいてくる。職員は入居者の尊厳について十分理解しており、具体的には接遇マナーを重視している事が窺えた。食堂兼居間は明るい談笑の場となっており、小人数掛けのテーブルやソファでゆったりとくつろぎ、落ち着いた生活が送れていることが垣間見られた。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	入居者及び入居者代理人の権利については入居契約書に明記されている。入居者のバックグラウンドについても入居申込時に面接やホームへの見学を経て情報収集されており、入居後も普段の会話や表情から把握されるようにしている。注意が必要な物品の保管についても倉庫等に収納されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員が参加し自己評価に取り組んでいる。職員各自の関係する項目について意見を出し合うとともに、日頃提供しているサービスをあらためて確認し、見直しをする機会としてとらえている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	地域民生委員等、幅広い立場の方が参加し、会議の意義や役割を説明して積極的に関わっていただいている。ホームの年間事業計画等も会議の内容に含まれており、メンバーからの意見・要望等は課題として即改善するように努めている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	写真入りの便りを月1回定期的に同封している。受診後の要報告事項等、日常特に報告を必要とする事項は電話で報告がされている。法人全体でのアンケートが年1回全事業所いっせいに実施されており、結果を基に分析し、職員間で検討・意見交換をし、改善へむけて取り組んでいる。ホーム玄関にはご意見箱が設置されており、気軽に投函できるようになっている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	同敷地内にあるケアハウスとの合同コンサートを実施しており、地域住民への参加を呼びかけ交流の場としている。敷地内は一つの生活区域となっており、敷地内の散策、ケアハウスに時々お邪魔したり、誕生会に招待されたり等の交流を図っている。近隣の住民とも散歩時に挨拶を交わしたり、隣の果樹園の方からの果物の差し入れ等もある。近隣の方が気軽に立ち寄れる雰囲気づくりに配慮がされている。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者の経験や生活歴を尊重し、地域の中で安心してその人らしく暮らし続けるという理念をつくりあげ、日々実践している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム玄関には家族をはじめ全ての来訪者にわかるように、適度な大きさに運営理念を掲示している。月1回のカンファレンスや日々のミーティング時に運営理念を再確認している。職員の異動期には特に、再徹底という意味から掘り下げて全職員で話し合い、具体的なケアに取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	広大な敷地内にあるケアハウスとの合同コンサートを実施しており、地域住民への参加を呼びかけている。敷地内は一つの生活区域となっており、敷地内の散策、同敷地内のケアハウスに時々お邪魔したり、誕生会に招待されたり等の交流を図っている。近隣の住民とも散歩時に挨拶を交わしたり、隣の果樹園の方からの果物の差し入れ等もある。近隣の方が気軽に立ち寄れる雰囲気づくりに配慮がされている。	○	職員の間で人的、時間的な余裕が持てるようになったら、小学生や中学生の職場体験・サマーチャレンジ等の場として交流を深めたり、地元自治会等のお祭りや文化祭等の情報を集め、それらに参加するなど、接点を持つよう努力していただきたい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価については全職員が参加し取り組んでいる。各自の関係する項目について意見を出し合うとともに、あらためて日頃のサービスの確認をし、見直しをする機会としてとらえている。職員のインタビューでも全職員で取り組んだことが確認できた。		

グループホームなごみ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者家族代表、地域民生委員、地域包括センター職員等、幅広い立場の方が参加し、会議の意義や役割を説明して積極的に関わってもらえるように働きかけがされている。ホームの年間事業計画等も会議の内容に含まれており、メンバーからの意見・要望等は課題として即改善するように努めている。		
6	9	○市町村との連携  事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の介護相談員の来訪が月に一回あり、入居者との関わりの中から課題を見つけ解決にむけ協働している。実務的なことは法人本部が窓口となり、市担当者との連携を取り、情報の提供をしながら、課題解決へむけて取り組んでいる。	○	市町村は市民福祉を推進する最前線として、事業の推進において重要な存在です。地方自治を担う県や市の職員にホームの考え方や実態をよく知ってもらおうよう、研修の場として利用してもらおう等、関係づくりを積極的に行っていただきたい。
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族への請求書送付時に、写真入りの便りを月1回定期的に同封している。受診後の要報告事項等、日常特に報告を必要とする事項は電話で報告がされている。入居者一人ひとりのアルバムが作成されており、家族等が訪れた際の報告に使用されている。金銭管理については月1回の書面での報告と面会時に家族の確認をいただいている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人全体でのアンケートが年1回いっせいに実施されており、データの集計をホーム職員が行っている。結果を基に分析し、職員間で検討・意見交換をし、改善へむけて取り組んでいる。またホーム玄関にはご意見箱が設置されており、家族には入居時に説明がされており、気軽に投函できるようになっている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの関係が崩れるので異動はないほうが良いことは管理者も十分理解されている。他業種の雇用状況の好転等で職員の確保が難しい中、職員の異動は極力行わないようにし、入居者との信頼関係の構築に努めている。やむを得ず交代する場合には、継続されたケアが行われるよう重複期間をとり、入居者への影響がないように配慮している。		

グループホームなごみ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は法人内・外ともに多く企画されており、複数日の日程設定等、シフト勤務の中で可能な限り職員全員が参加できるように配慮されている。また、入居者の午睡の時間を利用したミーティング時などに、研修の成果を報告したり、研修内容が継続的に活かせるよう工夫している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会や講習会等に参加し、サービスの質の向上を図っている。また、行政の圏域内のホームとの相互交流についても前向きに検討されている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に職員が面接を兼ね自宅に訪問したり、ホームに見学に来てもらう等して、入居を希望する本人が職員やサービスの場に徐々に馴染めるように配慮している。家族からの情報により、生活歴を尊重し、その人の生きてきた環境を理解し、安心して過ごせる環境作りに努力をしている。他の入居者との関係作りも大切にしており、職員が間に入り徐々に拡げている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	各入居者が生きてきた環境を出来る限り理解し、常に同じ目線に立ち、本人の想いを傾聴し、共感の中から支援がされている。訪問調査日も旧盆直前であり、お墓参りをしたいという入居者の希望に合わせ対応していることを伺った。調理の方法を教えてもらったり、一緒に考えたり、入居者と職員は普通の家庭と同じくらしを送っている。		

グループホームなごみ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者や家族よりの今までの情報や普段の会話・表情から把握するように努めている。入居者の言葉や行動を真摯に受け止め、一人ひとりの希望や意向をしっかりと把握できるよう、月1回・月末の月曜日のカンファレンスや毎日の引き継ぎのミーティングで検討している。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族が面会に訪れた際に現状を伝えるとともに、家族の意見や意向を聞き、相談しながら計画に反映させている。カンファレンス等で職員が意見を出し合い話し合いをし計画を立てている。月1回・月末の月曜日のカンファレンスや毎日の昼食後のミーティングでも検討がされている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は定期的に見直しがされている。月1回のカンファレンスや毎日のミーティングで検討し、認知度・ADLの変化等が見られた時はご家族に連絡し、かかりつけの医師の指示等も仰ぎ、必要に応じて見直しをしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	特別な外出の支援や外泊、通院のサービスを通じ、柔軟な支援を行っている。認知症対応型のデイサービスもホームのすぐ隣に開設されている。		

グループホームなごみ


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に協力医療機関がかかりつけ医になることを説明し、同意を得、必要に応じて支援し、いつでも受診できる体制が確立されている。希望があれば入居前の医療機関での受診もできる。今秋、訪問診療の受け入れ開始が予定されている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末については本人の思いや家族等の希望を聞きながら、状態の変化があるごとに、かかりつけ医や法人内関係者等も交え相談を重ね、方針を決め、支援に繋げている。すでに看取りについては経験済みで、今後の対応についても前向きに取り組んでいる。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員が入居者の尊厳については十分理解しており、具体的には接遇マナーを重視している事が窺えた。特に言葉かけについて全職員が気をつけていることが訪問調査当日に垣間見られた。個人情報保護、秘密保持についても徹底されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者にはある程度の日課はあるが、時間を区切った過ごし方ではなく、一緒にお茶を飲んだり、カレンダー作り、お菓子作り等、思い思いのペースで過ごせるよう支援されている。		

グループホームなごみ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や盛り付け、片付け等はできるだけ入居者と共に行い、意志や気持ちを大切に、一日の大切な活動の一つとしている。職員も一緒に食事を取っており、味付けの好みや好きな食べ物の話などをしながら、3~4人掛けの小テーブルで楽しい時間を過ごしている。このホームならではの器へのこだわりがあり、色とりどりの盛り付けを見ただけでも楽しみがわいてくる。食後のひと時は明るい談笑の場となっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	回数の少ない入居者でも週2回は入浴している。入浴時間はある程度決まっているが、午前、午後いつでも対応している。本人の希望に応じ夜間の入浴も実施している。片方のユニットの浴槽には両側に介助用のスペースがあり、介護度の高い入居者への対応もできている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	各入居者の今までの生活習慣などを検討しながら、得意分野で一人ひとりの力を発揮できるように、拭き掃除や食事の盛り付け、洗濯たたみ等をしていただいている。また、習字、ぬり絵等、自宅にいた頃の趣味が続けられるように場面づくりがされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホーム周辺での散歩に出かけたり、近所へ花を見に行ったりして外出している。季節を感じていただくため、自然の豊かな場所に車で遠出することもある。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	外部からの不審者への対策上、建物の構造や職員の配置、入居者の状況を考慮し、施設の玄関には鍵をかけている。居室への施錠は行っていない。入居者の安全を確保しつつ、鍵をかけないで過ごせるよう前向きに取り組もうとしている。		

グループホームなごみ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	同一敷地内のケアハウスと協力体制を築いており、合同で年2回防災訓練が実施されている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランス、水分量などに注意している。お茶以外の時間にも水分が取れるようにしている。摂取状況はチェック表に記録されており、職員が情報を共有している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関は昔ながらの引き戸で趣があり、共用空間は全体が木目調で明るい雰囲気である。台所、食堂兼居間も広々としており、小人数掛けのテーブルやソファがゆったりと配置されている。食堂兼居間には生け花や観葉植物が置かれ、廊下の壁には古典的なのれんが掛けられており、落ち着いた生活が送れるように配慮がされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の入口には入居者の出身地に関する絵や新聞記事がはられており、入居者への配慮がされている。居室の窓には硝子戸と障子戸が二重に設置されており、全体に和風の演出が感じられる。使い慣れた入居者の箆笥や机などが置かれ、趣味の書や絵、写真等がはられ、居心地の良さに繋がっている。		

※  は、重点項目。